

令和三年度 奈良県租税教育推進連絡協議会長賞

税金と私達の生活の関係性

奈良県立磯城野高等学校 一年 朝井 りり花

私達が税金を払う理由は、果たしてあるのだろうか。なぜ税金を取られないといけないのだろうか。この様に疑問に思った事は、誰しも一度はあるのではないか。実際、税金を払う理由があまり分かっていないという人も少なからずいるのではないかと私は思う。しかし、それでも私達は無意識のうちに当たり前のように税金を払ってしまっているのだ。ではその税金は一体何に使われているのだろうか。

学生が一番身近に感じて、分かりやすい例をいうなら、それは学校だろう。学校には、私達がしっかりと勉学に勤しめる様に沢山の税金が使われている。例えば、学校の校舎、体育館、黒板、体育で使うボールだったり、公立の小学生や中学生でいうなら、必要な教材などにも税金が使われている。一年間で一人あたりの子供に使われる税金の金額は、小学生で約八五万円、中学生で焼く九八万円、高校生で約九一万円。この数字を見るだけでも莫大な税金がかかっている。まだ学生の私からすると、想像も出来ない様な金額だ。

それ以外でも私達が安全な生活を送る為にも税金は沢山使われている。火災や災害から私達を守る為に、消防署が救急活動をしたり、私達の身を守る為に警察が防犯の取締りなどを行っている。この様に私達が安心して普通に外を歩けるのは、消防署や警察の活動があるからこそだ。私達日本人は、夜に一人で外を歩いても比較的安全だと感じる人の方が多いのではないだろうか。しかし、少し視野を広げて見てみるとどうだろう。そう感じる国は圧倒的に少ないのだ。ほとんどの国では夜に外を出歩くのは危険だと感じる方が多いだろう。世界から高く評価されている、日本の治安の良さ。それを支えているのは、警察だ。その警察の活動にも税金は使われているのだ。もし、その税金が無くなってしまうと消防署や警察は、活動が出来なくなってしまう。そうすると、まず犯罪は確実に増えるだろう。普通に外を出歩くのさえ危なくなる可能性が高い。毎日を不安や恐怖を感じながら生活をするのは、私達にとって多大なストレスとなるだろう。消防署が活動出来なくなっても困るだろう。その場合、火災や災害が起こった時に誰が助けてくれるだろうか。助けてくれる人などほとんどいないといっても過言ではない。救急車にも税金が使われているのだから、倒れてしまったり、動けない程の酷い怪我を負ってしまってもどうすることも出来ないだろう。私は、そんな生活を想像するだけでも怖い。きっと、家から出られなくなってしまう。

この様に、私達が安心して安全に暮らせているのは税金が支えてくれているからといっても良いだろうと私は思う。税金を払うという少しの損失で、多大な利益を貰えるのだから私達が税金を納めるという事は、大切な行為といえるだろう。